

専門学校 久留米リハビリテーション学院 授業評価 —令和6年度の結果—

本学院では、授業の質の向上を念頭におき、「学生の授業満足度の把握と教員の研鑽」を目的として、専任教員の担当科目を対象に平成18年度より授業評価を開始、平成20年度より本格的にアンケート結果の分析を進めてきた。これを実施することにより、各教員が担当している科目の授業内容を振り返り、次期あるいは次年度に活用することで授業の質の向上を目指した。しかし、授業アンケートを進めていく中で、このアンケート結果を個々教員の授業改善だけでなく全教員がある一定の教授力を持てるように活用することで教育の質の担保ができないかと考え、平成23年度に授業アンケートのリニューアルを実施し、久留米リハビリテーション学院の授業における教員の取り組みや学生の満足度を広く公開することとした。

【学生による授業評価】

1. 評価項目

授業評価項目は、授業に関する一般事項を大項目とした。大項目および細項目ともに、平成22年度までの授業アンケートの評価内容や項目数の見直しを行っている。大項目および細項目については、以下に示す。

(1) 授業構成

- ① シラバスの教育目標は明確に提示していた。
- ② シラバスの教育目標は達成された。
- ③ 授業内容を理解するにあたり適切に教科書及び講義資料の提示が行われた。
- ④ 授業内容を理解するにあたり適切な時間配分をもって行われた。

(2) 教員の授業の進め方

- ① 話し方は、明瞭で聞き取りやすかった。
- ② 重要なポイントを明確に示し、理解度を深めるための配慮を行っていた。

(3) 教員の伝え方

- ① 適切な授業環境を保つことに努め、効果的に学生の参加(発言等)を促した。
- ② 適切な助言を与えてくれた。
- ③ 実習や国家試験に活かせる知識・技術を習得することができた。

(4) 教員の関わり方

- ① 授業に対する熱意を感じた。

(5) 学生の授業へのモチベーション

- ① 授業中は、集中して教員の話や説明を聞いた。
- ② 授業に意欲的に取り組んだ。

2. 評価の方法および集計方法

平成22年度までの授業アンケートにおいては、評価項目に対し「強くそう思う」「そう思う」「そ

「う思わない」「強くそう思わない」の4つの選択肢のうち該当するもの一つを選択してもらい、どの選択肢にも該当しない項目については「無回答」としていたが、項目を見直し「強くそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「まったく思わない」の5つの選択肢に変更した。回答対象者のうちアンケート実施日に欠席した学生を「無回答」とした。また、感想・意見・希望などについては、前回のアンケートから変更せず自由に記載してもらった。

集計方法については、各選択肢を以下のように点数化し、各項目についてすべてが「強くそう思う」だった場合を満点として100点満点換算し、その割合を大項目ごとにグラフ化した。

- 「強くそう思う」 : 5点
- 「そう思う」 : 4点
- 「どちらとも言えない」 : 3点
- 「そう思わない」 : 2点
- 「まったく思わない」 : 1点
- 「無回答」 : 0点

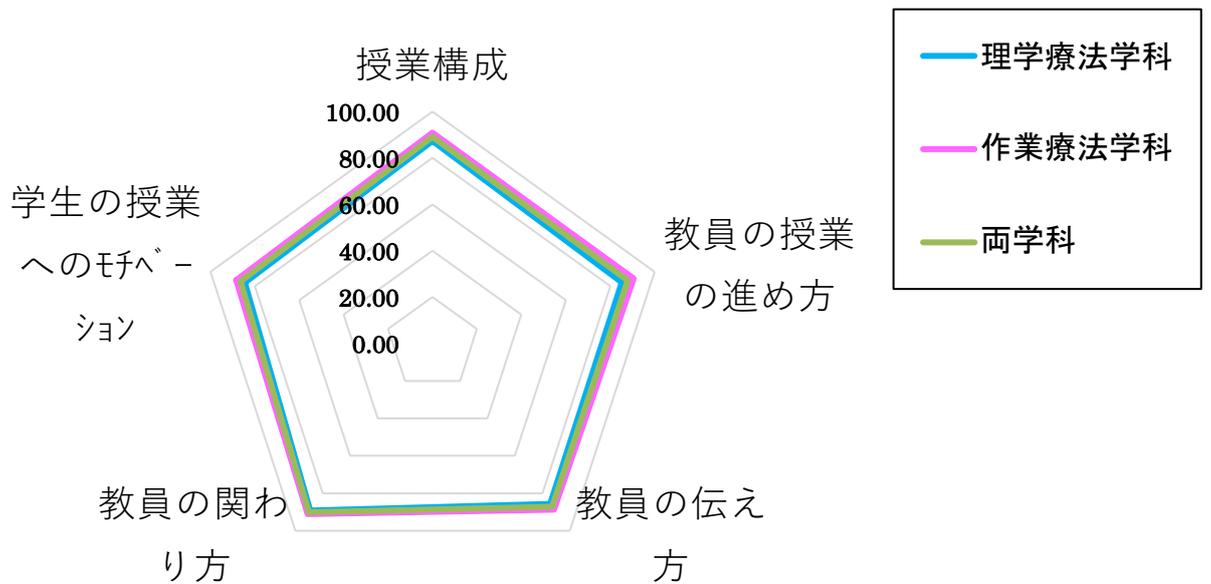
3. 結果

集計結果については、以下のような結果となった。

	理学療法学科	作業療法学科	両学科
授業構成	89.02	94.10	91.56
教員の授業の進め方	87.82	93.77	90.80
教員の伝え方	87.75	93.21	90.48
教員の関わり方	90.23	94.21	92.22
学生の授業へのモチベーション	87.02	90.71	88.86
総合 score	88.54	93.20	90.87

総合score





	理学療法学科			作業療法学科			両学科		
	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6
授業構成	87.33	93.27	89.02	90.91	93.82	94.10	89.12	93.54	91.56
教員の授業の進め方	85.22	92.04	87.82	90.56	93.51	93.77	87.89	92.77	90.80
教員の伝え方	85.66	91.97	87.75	88.63	92.12	93.21	87.14	92.04	90.48
教員の関わり方	89.16	94.11	90.23	91.06	94.15	94.21	90.11	94.13	92.22
学生の授業へのモチベーション	84.53	89.06	87.02	88.41	90.42	90.71	86.47	89.74	88.86
総合scora	86.38	92.09	88.54	89.91	92.80	93.20	88.15	92.45	90.87

(学生による自由記載欄のコメント)

科目	代表的なコメント
運動系統学 (PT・OT)	<p>分かりやすい絵や考え方などを教えてくれたので理解が深まりました。</p> <p>実際の解剖動画を見ることでよりイメージできた。</p> <p>実際にテーピングを貼ったことで筋肉のイメージがしやすかった。</p> <p>骨模型を使つての授業でイメージしやすかった。</p>
臓器系統学 (PT・OT)	<p>イラストや自分で絵を描くなどイメージにつなげやすかった。</p> <p>ビジュラクラウドを用いた説明が多く、イメージが付きやすかった。</p> <p>授業の際、動画を先生の解説付きで見られたため、とても理解しやすかった。</p> <p>こまめな小テストがあったため、自分の不足点が分かって家庭学習を効率的に進めることができた。</p> <p>教科書を最大限に活用した学習で自分にとってもあつていたと思う。</p> <p>生徒が答える機会を多く設けて下さるため、とても楽しかった。</p>
神経系統学 (PT・OT)	<p>例え話をいれながら、細かく説明してくれてわかりやすかった。</p> <p>図を描くことで、機能や位置関係を理解しやすかった。</p> <p>手を挙げるとすぐに駆けつけて教えてくれたのがうれしかったです。</p>

	<p>イラストなどを多く使い授業をしていただいたためイメージしやすかった。また、紙などを用意していただき、実際に自分で書きながら学習を行えたため理解しやすかった。</p> <p>わかりやすく楽しい授業で楽しみながら学習することが出来ました。</p>
リハビリテーション概論 (PT・OT)	<p>授業が分かりやすかつ専門的に教えていただいたのですぐに理解することができました。</p> <p>授業中に習ったことは、実習などで疾患名を見る際にどのような症状が出るのかなどを考えるためにとっても重要だなと感じたので、これから身につけていきたいと思いました。</p> <p>リスク管理の授業でグループ班を作って話し合っって答えを出し合ったところがよかった。</p> <p>写真がたくさんスライドに載っていたので、文字だけの説明よりもかなりイメージがしやすかったです。</p>
理学療法概論 (PT)	<p>臨床での経験を元に話されていたので分かりやすく、信頼性が高いと感じた。</p> <p>実際の臨床現場での様子やリハビリについての話を詳しく聞いた。</p> <p>倫理、哲学の授業が非常に興味を持って聞くことができました。</p> <p>実際の現場ではこんな感じというように、想像しやすい例え話が多くて分かりやすかった。</p> <p>理解が少し難しい場面など、詳しく例え話も含めてしていただけてとても理解しやすかった。</p>
作業療法概論 (OT)	<p>グループワークや発表の機会が他の教科よりも多く、チームで協力することの大切さや大変さが理解できた。</p> <p>グループでも発表やマシュマロチャレンジなど、周囲と協力しながら頭を使うことで、ほかの授業とは違うことができ、楽しく学べました。</p>
運動器障害理学療法学 (PT)	<p>実技など実際に体験することでイメージしやすくなった。</p> <p>様々な教材を用いていてわかりやすかった。</p> <p>骨模型でイメージをつけながら取り組み理解しやすかった。</p> <p>国家試験問題を通しての確認があったので理解を深められた。</p>
運動器障害作業療法学 (OT)	<p>動画を見たり、Google フォームで確認することでより理解に繋がった。</p> <p>スライドが見やすく、難しい範囲では何度も反復して教えて下さったので理解しやすかった。</p> <p>重要な部分は付箋に書き込む時間があり、教科書ですべてが学習できるようにしてある。</p>
精神医学 (PT・OT)	<p>イメージしにくい言葉も例えを使ってわかりやすく説明して下さるので理解がしやすかった。</p> <p>アウトプットの時間を長くとってもらえた。臨床の話をしてくれたので理解しやすかった。</p> <p>教科書の文章だけでは想像がつかない疾患も動画があることで理解できることが多かった。</p> <p>国家試験の過去問に触れることで、実際にどのような問題が出るのか知ることができ理解しやすかった。</p>

授業評価総評

例年、久留米リハビリテーション学院では「授業評価」を実施しています。

令和5年度の授業評価との比較を行いました。授業評価の詳細は昨年度のパナーを参照してください。

先ず理学療法学科ですが、令和5年度の総合評価が92.09ポイント、令和6年度の総合評価は88.54ポイントであり、総合で3.55ポイント下がりました。詳細を見ていくと「授業構成」では4.25ポイント、「授業の進め方」では4.22ポイント、「教員の伝え方」では4.22ポイント、「教員の関わり方」では3.88ポイント、「学生の授業へのモチベーション」では2.04ポイントと、すべての項目で昨年を下回りました。この数字を真摯に受け止め、再度今までの講義を振り返り改善を図る必要があります。

次に作業療法学科ですが、令和5年度の総合評価が92.80ポイント、令和6年度の総合評価は93.20ポイントであり、総合で0.40ポイント上がりました。詳細を見ていくと「授業構成」では0.28ポイント、「授業の進め方」では0.26ポイント、「教員の伝え方」では1.09ポイント、「教員の関わり方」では0.06ポイント、「学生の授業へのモチベーション」では0.29ポイントと、すべての項目で昨年のポイントを上回りました。

両学科の評価をもとに、慢心せず、学生の学習意欲の向上を図りより良い講義ができるように取り組んでいきたいと考えます。近年、学生の成績向上のために、居残り学習や早期からのグループ学習の導入など様々な取り組みを行っておりますが、やはり学習の原点は「予習をし、講義をしっかりと聞き、復習をすること」だと考えております。そのためにも、学生がいかに興味を持って講義に臨むかが重要であり、学生の自主性を導き出すよう講義を展開させていく必要性を感じております。

本学院では前・後期終了ごとに授業評価を行い、それに対する振り返りや改善への取り組みを行っています。

今回の結果を踏まえ、各教員には「講義実施に関する課題とその対応」を認識してもらい、より良い講義となるように次年度以降の講義に取り組んでもらいます。

令和7年2月吉日

専門学校 久留米リハビリテーション学院

教務部長 大坪 健一